

LEON-VICTOR DUPRE

レオン・ビクトール・デュプレ (1816~1879)



略 歴

フランス中西部にあるリモージュに生まれ、兄ジュール・デュプレに師事。画題や様式に強く影響を受ける。

リムザンやベリー地方、リラダンやベリー地方、

リラダン、ノルマンディーを旅して風景を描いたが、

バルビゾンにもしばしば滞在し、近郊の風景を描いている。

サロンでは1849年にオワーズ河のほとりを掻いた風景画で

三等賞を得る。兄の好んだ荒々しいタッチで描かれた嵐の前の激しい風景よりも、落ち着いたのどかな田園風景を好み、暖かな色彩で描いた。

1873年、兄との大規模な展覧会がパリの画廊で開催され一層評価が高まった。パリで没

現在では兄ジュールと併せたデュプレ兄弟として七星の中に数えられる程、彼の作品は兄と同等に近い評価を受けている

作品名 風景

種類 キャンパスに油彩

サイズ 20.0×40.0cm

「Michel RODRIGUE」証明書付き